

●朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)

農業科学院果樹学研究所竣工

2018年5月9日発『朝鮮中央通信』によれば、同日、平安南道順川郡の農業科学院で果樹学研究所の竣工式が行われた。

金正恩国務委員長が米国務長官を接見

2018年5月10日発『朝鮮中央通信』によれば、同月9日、金正恩国務委員長が訪朝中の米のポンペオ国務長官と面会し、会談を持った。

第18回5.21建築祝典開催

2018年5月7日および10日発『朝鮮中央通信』によれば、第18回5.21建築祝典が平壤市の科学技術殿堂で開催された。今回は「国内産建材を利用して地方の特色を活かして」がテーマであった。

朝鮮労働党親善参観団が中国訪問

2018年5月15日発および17日、24日発『朝鮮中央通信』、中国外交部ホームページによれば、同月14～24日、中国共産党中央委員会対外連絡部の招請で、朝鮮労働党朴泰成副委員長を団長とする親善参観団が中国を訪問し、北京とその他の地方を訪問した。同16日には、北京の人民大会堂で習近平国家主席と面会

した。中国外務省の陸慷報道官は同月15日の定例記者会見で、「今回の訪問は、習近平総書記と金正恩委員長による重要な合意の具体的な実例だ」、「中国国内の経済発展と改革開放のプロセスがもたらした成果を知り、統治をめぐる諸問題について両党間で経験の共有を促進する」と語った。

朝鮮労働党中央軍事委員会第7期第1回拡大会議開催

2018年5月18日発『朝鮮中央通信』によれば、金正恩国務委員長の臨席のもと、朝鮮労働党中央軍事委員会第7期第1回拡大会議が開催された。拡大会議では、革命発展の要求と現時期の人民軍の

実態を総合的に分析したうえで、革命的党軍を軍事、政治的にさらに強化し、国家防衛事業全般で改善をもたらすための一連の組織的対策が討議決定された。拡大会議ではまた、党中央軍事委員会の一部委員を解任と任命、武力機関の責任活動家を解任と異動、新しい幹部を任命することに対する組織問題が扱われた。

庫岩一畚村鉄道橋開通

2018年6月25日発『朝鮮中央通信』によれば、庫岩一畚村鉄道橋を金正恩国務委員長が視察した。同月31日発『朝鮮中央通信』によれば、同月30日に開通式が行われ、開通式に、朴奉珠総理と呉秀容朝鮮労働党副委員長、姜宗官陸・海運相をはじめとする幹部、関係者、建設者らが参加した。

金正恩国務委員長が元山葛麻海岸観光地区建設現場を視察

2018年5月26日発『朝鮮中央通信』によれば、金正恩国務委員長が江原道の元山葛麻海岸観光地区建設現場を視察した。

第4回南北首脳会談開催

2018年5月27日発『朝鮮中央通信』および韓国・統一省ホームページによれば、同日板門店の北側施設である「板門閣」で開催された。

第21回平壤春期国際商品展覧会開催

2018年5月28日付『朝鮮新報』によれば、同年5月21～25日に平壤で第21回平壤春期国際商品展覧会が開催された。今年の参加国は北朝鮮、中国、イラン等の国々であるとし報道されていない。

板門店宣言履行のための南北閣僚級会談が板門店で開催

2018年6月1日発『朝鮮中央通信』および韓国統一省ホームページによれば、同日板門店の南側地域にある「平和の家」で開催した。南側は趙明均統一省長官が、北側は李善権祖国平和統一委員会委員長が団長を務めた。会談では共同報道文が採択され、同月14日に南北将官級軍事会談を、同月22日に離散家族、親戚訪問

に関する南北赤十字会談を開催することで合意した。

米朝首脳会談開催

2018年6月13日付『労働新聞』によれば、シンガポールで史上初の米朝首脳会談が開催され、金正恩国務委員長とトランプ大統領が会談を行った。会談では共同声明が採択された。共同声明の冒頭には「トランプ大統領と金委員長は、新たな米朝関係の確立と、朝鮮半島における持続的で強固な平和体制の構築に関連する諸問題について、包括的で詳細かつ誠実な意見交換をした。トランプ大統領は北朝鮮に安全の保証を与えることを約束し、金委員長は朝鮮半島の完全非核化への確固で揺るぎのない約束を再確認した。」と規定されている。また、同宣言では「1. 米国と北朝鮮は、両国民が平和と繁栄を切望していることに応じ、新たな米朝関係を確立すると約束する」「2. 米国と北朝鮮は、朝鮮半島において持続的で安定した平和体制を築くために努力する」「3. 2018年4月27日の「板門店宣言」を再確認し、北朝鮮は朝鮮半島における完全非核化に向けて努力すると約束する」「4. 米国と北朝鮮は（朝鮮戦争の米国人）捕虜や行方不明兵士の遺体の収容を約束する。これには身元特定済みの遺体の即時帰国も含まれる」との約束が交わされている。

南北将官級軍事会談開催

2018年6月14日発『朝鮮中央通信』および韓国統一省ホームページによれば、同日板門店の北側施設である「統一閣」で南北将官級軍事会談が開催された。南側は、金度均陸軍少将、北側は安益山陸軍中將（韓国の階級では少将にあたる）を団長とする代表団が参加し、共同報道文が採択された。同報道文では、合意事項として「双方は、軍事的衝突の原因になってきた一切の敵対行為を停止する問題、黄海の北方限界線一帯を平和水域とする問題、南北交流協力と往来および接触の軍事的保障対策を樹立する問題、板門店共同警備区域を試験的に非武装化する問題などについて十分な意見交換を行った。」「双方は西海海上衝突防止の

ための2004年6月4日の南北将官級軍事会談の合意を徹底的に履行し、東・西海地区軍通信線を完全に回復する問題について、相互に合意した。」「双方は会談で提起された問題を今後継続協議して解決していくことにした。」が挙げられている。

全国家具および建具、音響建材部門科学技術成果展覧会開催

2018年6月11日および15日発『朝鮮中央通信』によれば、同月11～15日、平壤の科学技術殿堂で「家具および建具、音響建材の主体化、多様化、多機能化、質の向上」をテーマとして、全国家具および建具、音響建材部門科学技術成果展覧会が行われた。

南北体育会談開催

韓国統一省ホームページによれば、2018年6月18日に板門店の南側地域にある「平和の家」で南北体育会談が開催された。同会談の共同報道文によれば、南北は同年7月4日に平壤で南北統一バスケットボールの試合を開催し、秋にはソウルで開催することにした。また、南北は2018年アジア競技大会開閉会式に共同で入場し、名称はコリア（KOREA）、略語表記はCORで、フラグは朝鮮半島旗で、歌はアリランとすることにし、一部の種目において、単一のチームを構成して参加することにした。また、南北は2018年障害者アジア競技大会をはじめとする国際競技に共同で進出して南と北が開催する国際競技に参加し、種目別合同訓練や試合など、南北間の体育協力と交流を活性化していくこととした。

金正恩国務委員長中国訪問

2018年6月20日発『朝鮮中央通信』および同日発『新華社』によれば、同月19～20日、金正恩国務委員長が中国を訪問し、同月20日、習近平国家主席と会談した。金正恩時代に入り3回目の中朝首脳会談となった。

南北赤十字会談開催

2018年6月22日発『朝鮮中央通信』および韓国統一省ホームページによれば、江原道の金剛山で南北赤十字会談が開催

された。同会談の共同報道文によれば、南北は同年8月20～26日に行い、再会対象は、それぞれ100人ずつとした。また、南北は離散家族の再会を円滑に進めるために再会場所である金剛山面会所を補修することにし、南側は現地点検のための施設点検団を6月27日から派遣することにした。

南北鉄道協力分科会談開催

2018年6月27日発『朝鮮中央通信』および韓国統一省ホームページによれば、同月26日、板門店の南側地域にある「平和の家」で南北鉄道協力分科会談が行われた。同会談の共同報道文によれば、南北は次の事項に合意した。

1. 南北は歴史的な板門店宣言に基づいて行われる東海線・京義線鉄道協力問題が、民族経済の均衡的発展と共同繁栄を遂げるうえで重要な意義を持つという立場を確認し、今後この事業を同時に推進していくことにした。
2. 南北は東海線・京義線鉄道近代化のための先行事業として、北側区間（金剛山―豆満江、開城―新義州）の現地共同調査を早めに進めることにした。
 - ①南北鉄道連結と近代化のための共同研究調査団を前に、構成することにした。
 - ②現地の共同調査を7月24日に京義線から開始し、続いて東海線で進行することにした。
3. 南北は、まず、7月中旬に京義線鉄道の接続区間（汶山～開城）、次いで東

海線鉄道の接続区間（猪津～金剛山）の共同点検を行い、その結果をもとに、駅舎の周辺工事と信号・通信開設など、必要なフォローアップを推進することにした。

4. 南と北は東海線・京義線鉄道の接続と近代化を高いレベルで進めることにし、そのために鉄道の近代化のための設計、工事方法など実務的対策を具体的に立てていくことにし、その結果に基づいて着工式は速やかに開催することにした。
5. 南北は、今回の会談で合意された問題を推進するうえで提起される実務的な問題を、板門店連絡チャンネルを介して文書交換方式で継続協議解決していくこととした。

南北道路協力分科会談開催

2018年6月28日発『朝鮮中央通信』および韓国統一省ホームページによれば、同日、板門店の北側地域にある「統一閣」で南北道路協力分科会談が行われた。同会談の共同報道文によれば、南北は次の事項に合意した。

1. 南北は東海線・京義線道路の近代化事業が民族経済の均衡的発展と共同繁栄を成し遂げるうえで重要な意義を持つという立場を確認し、今後この事業を同時に推進していくことにした。
2. 南北は東海線・京義線道路の近代化のための範囲と対象、レベルと方法など実践的に提起される案を協議し、確定することにした。

①道路の近代化区間は、東海線は高城から元山までに、京義線は開城から平壤までに定め、今後これをさらに拡大していくこととした。

②工事の範囲と近代化のレベルは、東海線・京義線道路の近代化区間の諸対象（道路、構造、安全施設、運営施設）を国際基準に準じ地域の特性に合わせて定めるものとする。

③道路の近代化のための設計と施工は、共同で進行する。

④着工式は、必要な準備が行われるのに従い速やかに進行する。

3. 南北は当面、道路の近代化区間の共同調査を先行することにした。

①このため、南北道路の接続と近代化のための共同研究調査団をまず構成する。

②現地共同調査は8月初め、京義線から開始し、続いて東海線で進行する。

4. 南北は、道路の近代化の技術的な基盤を築くために、道路建設運営に必要な先進技術の共同開発に協力していくこととした。

5. 南北は、東海線・京義線道路の近代化区間の共同調査と関連した実践的な問題を文書交換方式で継続して協議し、解決していき、必要に応じて、双方の実務接触も行うこととした。

ERINA 調査研究部主任研究員
三村光弘